

2023年度事業報告

公益財団法人 味の素ファンデーション



2024/5/20

© 2024 The Ajinomoto Foundation

THE
AJINOMOTO
FOUNDATION¹

1. 基本方針
2. 2023年度 予算着地&2024年度予算
3. 事務局活動（トピックスと予定）
4. 2024年度目標（2023年度レビュー含む）
 - 1) 被災地復興応援 健康・栄養セミナー事業
 - 2) 低所得国栄養改善事業
（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））
 - 3) 食と栄養支援事業（AINプログラム）
 - 4) 低所得国での栄養士育成プロジェクト
（ベトナム栄養制度創設プロジェクト（VINEP））

1. ミッション：トーンとして「～に貢献する」

「食と栄養」関連事業を通じて、世界の国々や地域の発展およびそこで生きる人々の明るい未来の創造に貢献する

2. ビジョン：トーンして、「～となる」

多様な組織連携による新しい価値創造の要となる

3. 行動指針：

- ① 常に公益のために、考え、行動する
- ② 現実を直視し、強い情熱と結果へのこだわりを持ち挑戦する
- ③ 人・歴史・文化を尊重し、寄り添いながらコミュニティの発展を後押しする
- ④ 社会からの信頼を得るため、常に環境適応し、進化し続ける
- ⑤ 事業で得た知見や学術評価の結果を社会に還元する

2023年度トピックス

1. 評議員会・理事会運営(23/6)

2023年6月に評議員会、理事会を開催。また23年度は、書面決議のほか、12月にハイブリッドによる臨時理事会を開催。

2. 事務局体制の変更(23/7)

2023年7月の異動で、上杉事務局長が、ペルー味の素社へ出向、後任として齋藤氏が事務局長に就任。

3. 新ミッション・ビジョン・行動指針導入(23/4)

⇒HPの改定(23/7)

2023年7月よりTAFのHP改定。内容の刷新を行ったが、特にAINの公募～申請～決定までのプロセスで大きな業務の効率化を図ることができた。

4. 年次合宿の開催(23/10)

10月12日、13日の2日間でTAF全員参加の合宿を高輪研修センターで実施。新体制での2023年度中間レビュー、2024年度目標の議論を実施した。

5. 内閣府立ち入り検査対応(23/12)

内閣府の立ち入り検査が12月15日に実施された。大きな指摘点はなく、日頃の管理方法に対する承認を得た結果となった。

6. 被災地復興応援事業の変更申請(23/3～)

長きにわたり、内閣府とのやりとりを実施中。現時点で90%程度内容が固まった状態。内閣府向け申請書類作成において詳細の詰めが残るものの、収束に向けラストスパート

7. 寄付金額の上昇(23年度)

コロナ前水準まで戻った。

公益財団法人 味の素ファンデーション The Ajinomoto Foundation (TAF)

THE
AJINOMOTO
FOUNDATION

HP トップ画面
<https://www.theajinomotofoundation.org/>



被災地復興応援事業

ガーナ栄養改善事業
GNIP / 「KOKO Plus®」

「食と栄養」国際支援助成
AIN PROGRAM

ベトナム栄養制度支援
VINEP

財団情報
INFORMATION ▾

NEWS &
JOURNAL



1. 事業目的

(1) 地域の**自助・互助力**の向上：

- 1) 住民の心と体の健康リスクの低減、健康寿命の延伸
- 2) 地域の社会関係資本の増強、コミュニティの活性化
- 3) （被災地のみ）①②を通じた個人と地域におけるより良い復興の実現

(2) **共助・公助力**の向上と、官民連携力の向上：

発災時、被災者への食と栄養支援が重要視され、復興までの長期視点で支援がされる。

- ・ 自助：自分のことを自分ですることに加え、市場サービスの購入も含まれる。
- ・ 互助：相互に支え合っているという意味で「共助」と共通点があるが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なもの。
- ・ 共助：介護保険などリスクを共有する仲間（被保険者）の負担であり、近隣住民同士の支え合いをいう。社会保障制度に含まれない。
- ・ 公助：税による公の負担。

2. 中長期事業戦略

(1) 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上：

被災地・未被災地を問わず、地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織向けに、たべぷろも含むTAF保有のチエ・ノウハウ・モノの提供で、伴走型の継続した後方支援を行い、支援団体の活動を安定化・活性化させる。

東北エリア、食改・子ども食堂・生協を主なターゲットとし、食を手段として住民支援活動を行う組織向け後方支援を継続。災害時の自助力向上に繋がる新ツール・講習パッケージの活用を開始する。

(2) 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ事例づくり支援：

赤エプの実績とエビデンス、たべぷろの知見を活かした情報発信で、発災時の食と栄養支援について実行力のある組織を増やし、問題解決に資する仕組み作りを推進する

トライ＆エラー前提に、官民のネットワーク拡充、仕組み作りの支援を行い、成功事例作りに貢献する（活動エリアの集中と選択）

2023年度レビュー

1. 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上

(1) 東北における動き

1) 料理教室の自主開催

4-3月累計65回開催（1,097名参加）。コロナ影響が減少してきた6月以降増加傾向。TAFによる視察が自走者のモチベーション向上に繋がり、重要性を実感。調理器具の新規協賛案件は3件で、協賛先は積極的に料理教室を開催。赤エブ終了後の自主開催継続団体の再開には課題あり。

2) 地域の支援者支援活動

講習会・研修会4-3月累計93回実施。目標進捗率155%、年度着地見込 講演会11回＋研修会82回＝計93回（対年度目標155%）

東北エリア以外（静岡県函南町、八王子市、横浜市など）2023年度は、山形県まで範囲を拡大。

2023年度レビュー

2. 食と栄養支援における共助・公助力の向上、官民連携による仕組みの啓発

(1) まとめようプロジェクト

学術機関による研究発表による社会への発信を積極的に実施（日本健康教育学会等）。アジア栄養学会議で『被災地から生まれた「ありがとうレシピ集」の特徴と活用可能性』をテーマに**ベストポスター賞**を受賞。海外からも評価を得て、自信に繋がる成果

(2) たべぷろ

手引きを活用した啓発活動4-1月累積 27回実施。目標進捗率108%。モノ・人・資金等リソースを豊富に持つ産業界の巻き込みは生団連との連携活動が進行中。都道府県及び市町村でのモデルケース構築への伴走は長野県、千葉県等で進行するもターゲットの明確な選定までは至らず。
今後は、啓発活動に注力していく。

2. 中長期事業戦略

- (1) 現地政府、**学術機関との協力**により現地の栄養問題分析、調査研究を行う。
- (2) 上記により開発した製品について、**現地政府機関と企業の官民連携**によって受益者拡大を行う浸透モデルを構築する。
- (3) 現地企業がサステナブルに継続できるICTを活用した**バリューチェーン（生産、物流、販売、浸透活動）の構築**を行う。
- (4) 離乳児から子供向けへの**製品適用範囲の拡大**を行う。併せて他者連携でオープンイノベーションを推進。
- (5) 事業強化・拡大のため、エビデンス構築、PR、ドナー資金獲得のサイクルを回す。



2023年度レビュー

1. マーケティング戦略

(1) Product : 「KOKO Plus®」

(ココ：トウモロコシのお粥＝離乳食)

(2) Price(価格)：1セディの値上げにより上期はGP率を20% に維持するも、下期に原材料原価増加でGP率低下。

(3) Place (販売場所・流通経路):

1) 都市モデル：

- ① GHS協働とESM販売の質の向上目的に、エリア拡大を一時停止中。
- ② 保健所周辺での買い場整備（トライアル実施）、直販体制による取扱店舗拡充、営業活動の評価制度を導入した結果、出荷計画は予算よりも大幅に伸長。

2) ルーラルモデル：労力を最小限に抑えつつ、NGOとの連携を継続中。

(4) Promotion (販促)

- ① GHS協働とESM販売の活動質向上のため、1地域の保健所で巡回型オリエンテーション実施。回訪店舗数も増加した結果、販売量が増加し、成功例を構築。一方、WFPプロジェクトで50地区の看護師の栄養教育水準の向上を実現。しかし、非対象者には限定的効果。いずれの取り組みも高コストのため、効率的な方法を模索中。
- ② 態度変容サイクルを母親から看護師や小売店まで広げ、関係者のモチベーション維持のための広告やPRアプローチを展開。

2023年度レビュー

2. SCM（サプライチェーンマネジメント）戦略

生販の全員が参加する形で根本原因分析を実施し、生販委託先の関係を強化。

(1) 生販会議の定期的実施を開始した結果、適正在庫（2か月）を維持。

(2) サプライヤーとの緊密な連携と監査を実施。複数購買による安定調達検討を開始。

3. 生産戦略

(1) アクションプランの策定と工場内の課題の洗い出しを実施し、少しずつ改善をしている状況。昨年FPCの協力を得て、課題の洗い出しを実施。

(2) スタッフ育成により在庫、販売、生産の管理プロセスを強化したが、自立化には至っていない。

(3) PLの可視化によりCOGを月次でモニタリングできる状況となったが、予測化までは至っていない。

(4) 品質問題やプレミックスと大豆粉の欠品による生産停止が発生したが、事後対応により、改善した。

4. PR:

(1) WFPプロジェクト：資金を活用しTAFの販売基盤を強化。**看護師5,400人の栄養教育実施**。GHS内での連携強化に繋がり、栄養関連ドナーの会議の正式メンバーとして登録。

(2) ブランド向上：番組スポンサーを開始（**子どもタレント発掘、小売店主向け番組**）

2023年度レビュー

5. 組織：

- (1) 事業基盤の構築と人材の教育・育成を実施。棚卸在庫と販売額の理論値が一致。
- (2) 多数の専門家やアドバイザーを保持し、組織の知識やスキルを拡充。
- (3) 組織全体の知見を蓄積。税務署査察、品質問題対応、内部監査等に対応。

6. イノベーション戦略

アフリカ健康構想による3者連携を開始。NECの看護師向けアプリの開始。

UNDPの契約締結により、2024年度より活動ができることとなった。

※KPF：KOKO Plus foundation

1. 事業目的

食・栄養・健康に課題を抱える地域の人々を対象に、課題解決に取り組む団体への助成（資金・ノウハウ）を行い、対象者の生活の質の向上を通じて、公益に貢献する。

2. 中長期事業戦略

(1) AIN事業の“**運営プロセスの改善**”

(2) 団体間や専門家を交えたナレッジやノウハウをシェアする“**学びあいの場**”の継続

(3) プラットフォームとなるべく、AIN事務局や委員の“**運営基盤強化**”

(4) 団体活動の成果等の“**情報発信・産官学の連携**”を試みる。

AIN事務局の活動フレームの確認（2023年度作成）

わたしたちは、AIN委員会で食と栄養課題に取り組むNGOの事業を公募審査で採択し、助成金提供により支援します。★★★

それに加えて、AIN委員と共に、

1. ★★★面談・現地視察を行い、進捗確認・タイムリーな助言・課題の発掘・成果の発見を行います。
2. ★学びあいの場（事業計画の具体化、ナレッジシェア、事業完了報告）を設定し、NGOの事業確度の向上、連携・ナレッジ活用、成果の見える化をサポートします。
3. ★学会発表・論文化を支援し、将来の社会システム構築/団体助成金獲得のためのエビデンス化のためのサポートをします。

これらの活動を通じて、NGOの事業が、同じリソースでもよりインパクトの大きな活動となり、少しでも多くの成果が得られるようにNGOを支援します。

（優先度★）

2023年度レビュー

1. AIN長期レビュー(1999-2022年度)

特長：1999年より、長きに渡り「食を通じた栄養改善をテーマ」として、団体の実践活動を助成することで、現地のサステナブルな仕組み作りを支援し、20ヶ国以上の地域の受益者に貢献してきた実績と信頼をもつ、他に類を見ないプログラムである。現地視察や専門家である委員の助言を通じて、団体及び現地の状況に、柔軟に対応をし、団体の成果創出のために並走する特長をもつ。**2024年に25周年を迎える。**

2. AIN単年レビュー(2023年度)

「専門家や団体間を取りつなぐコーディネーションに注力し、より一層の団体の成果創出のための支援を行う」ことを基本方針とした。

(1) 運営プロセス改善 HPの改定と共に、公募申請方法をオンライン申請へ変更。字数制限や添付漏れ防止機能を導入し、事務局の書類チェック等の作業軽減に成功した。AINページから申請フォームに移行する閲覧者が増加し、より申請しやすいHPに改定できた。

(2) 定期面談・現地視察 団体との進捗報告面談（全団体、年2回）および現地視察（2団体）を実施、正確な現状把握とタイムリーな課題の発見・助言が進められた。

2023年度レビュー

(3) 「学びあいの場」の確立

1) 事業計画ブラッシュアップ(23/03)

23年度支援開始2団体の事業計画に関して、課題修正・計画が具体化された。

2) ナレッジシェア会(23/06)

テーマ（モリング / 活用チームビルディング行政連携 / 口腔衛生 / 加工・レシピ開発・啓発活動、ファシリテート等）

3) 完了報告会および公募説明会

22年度事業完了2団体の報告に対して調査結果の整理など、成果の見える化を支援。説明会に関して、沢山の参加者から質問を頂き、AINについての理解が深められた。また事前相談も増加し、AINの認知が促進された。

4) 情報発信

3団体の学会発表・投稿支援し、団体の活動の学会発表により、食と栄養の実践活動のPR・エビデンス化に寄与している。

5) その他

円安・物価高進行で、一部NGOに一時的な追加助成を実施・活動継続・成果に繋げた。

支援先一覧（2023）

	実施国	実施団体	プロジェクト名	期間(年度)	23年度助成(百万円)
新規	ブルキナファソ	ADIMA	大豆の学校菜園が結ぶ地域の連携でみんなで守る子供の健康と将来	2023～2025	3.0
	ネパール	(公社法) アジア協会アジアの友	ネパール国立大学との共同による栄養学科学生の栄養専門家育成とキッチンカーによる食生活改善事業	2023～2025	3.0
	インドネシア	(特非)地球の友と歩む会/LIFE	農村部に暮らす村人と子どものための栄養不足改善プロジェクト	2021～2023	3.5
継続	ラオス	(特非) ISAPH (アイサップ)	ラオスの美味しい昆虫食普及プロジェクト ～養殖昆虫のフードシステム構築	2021～2023	3.0
	ガーナ	GIFT (ギフト)	ガーナにおける地元産動物性タンパク質の加工保存による住民の栄養改善	2021～2023	3.2
	スーダン	(特非)ホープフル・タッチ	スーダンにおける学校菜園を通じた子どものライフスキル向上	2021～2023	3.8
	フィリピン	NPO法人DAREDEMO HERO	社会における貧困支援の一環としての栄養教育活動	2022～2024	3.7
	フィリピン	(特非)アイキャン	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善	2022～2024	3.7
	シエラレオネ	(特非)HANDS	農村部で子どもから地域住民へと育む持続可能な得言う様改善と食糧の安全保障のしくみ作り	2022～2024	3.7
	マラウイ	(特非)Colorbath	妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト	2022～2024	3.0

1. 事業目的

国家戦略に基づき、栄養の正しい知識・行動を伝える栄養人材（管理栄養士など）が育成され、社会で活躍できるような場と制度が構築され、国民の健康状態が向上されるという目標達成を目指すベトナムの国家機関の運営を費用/ノウハウ面で支援する。

2. 中長期事業戦略（達成するためのスキーム）⇒**今までのものを掲載**

ベトナムの国家機関および日本の栄養専門家とコラボレートしながら、臨床栄養ではNSTのモデル病院を確立する。学校栄養では小学校で体系的な栄養教育体制を確立する。NINとともに共催するVINEPワークショップでは、各活動をベトナムの行政・病院・学校にPRし、栄養制度創設を働きかける。これらの活動を通じて、栄養士の配置が促進されること、将来的な国民の栄養リテラシーおよび栄養状態の向上を達成する。

VINEP : Vietnam Nutrition System Establishment Project

2023年度レビュー

VINEPI-III :

1. VINEPの活動成果

- (1) HMU (ハノイ医科大) 栄養学学士課程開講 (2013)
- (2) 栄養士のジョブコード承認 (2015)
- (3) 保健大臣通達「2025年までに病院に100床に栄養士または栄養専門家 1 名を配置する」発出 (2020) 。

ハノイ医大 栄養学科 卒業式



2023年度レビュー

2. VINEPIV :

1) NINとSA (スポンサー契約) 締結 (22/03) ●

2) 50周年記念Workshop開催 (23/10) ●

NIN (栄養研究所) とTAFで日越の専門家が一堂に会しVINEPの過去の成果を確認、称えあい、臨床・学校栄養の現状把握と将来に向け議論した (23/10)

3) VNIESがによるSNP(スクールニュートリションプロジェクト)▲

UNP指導下で、日本式の栄養教育を小学校に導入するSNP実施

4) ICN2022 VINEP Symposium (22/12) ●

5) 小学校の栄養教育の指導書作成WG開始 (UNP-VNIES) ▲

体系的な栄養教育体制を確立することを目的に。日越カリキュラムreview実施(23/6-)。

6) ベトナムE病院栄養士がKUHPでNST研修準備×

準備を進めてきたが研修目的の不一致で計画中止

7) 第2回MEV-MEJ (※) Forum(23/6) ●

VINEPの内容を発表。在越日本大使館・佐々木書記官/保健省アドバイザー・正林氏との現地邦人専門家との情報交換によりVINEP方針決定の確度が高まった。

※Medical Excellence Japan

Medical Excellence Vietnam

